１０／２９（木）の発表

はじめよう、つづけよう。
「新北海道スタイル」
～新型コロナウイルスに強い北海道をつくる～ 新北海道スタイル

報道発表資料の配付日時　１０月２９日（木）１４時００分

発表項目（行事名）	ほっかいどう未来チャレンジ基金 「みらチャレ通信」Vol.37の発行について		
記者レクチャーのお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	北海道の未来を担う若者達の海外挑戦を応援するため、平成28年12月に創設した「ほっかいどう未来チャレンジ基金」。この基金により海外に留学した方々の活動状況などをお伝えする月刊紙「みらチャレ通信」Vol.37を発行しました。 ■掲載内容 **・「Hokkaido Study Abroad Program」で第３期生有働さんが講演しました** **・「ほっかいどう未来チャレンジ基金ＰＲパネル展in十勝」を開催しました** **・「ブラックニッカ ハイボール香る夜」を飲んで「みらチャレ」を応援！** **・留学生の活動状況** スポーツコース　向井原 洋平さん **・第３期生の留学成果報告** 学生留学コース　石垣　のぞみさん 未来の匠コース　鹿野　皓己さん ■主な配布先 応援パートナー（企業、団体等）、道内大学等 ※基金ホームページにも掲載しています。 ■発行時期 毎月下旬		
参考	ほっかいどう未来チャレンジ基金　公式Facebook「みらチャレ」 https://m.facebook.com/mirachalle/ 基金生の海外での活動状況等を随時掲載しています。 公式Facebookページ みらチャレ		

報道（取材）に当たってのお願い	助成対象者の海外留学の状況を情報発信することにより、道内の若者の海外挑戦に向けた機運醸成と、寄附などオール北海道での応援体制の構築を図っていきたいので、積極的な報道にご協力よろしくお願いします。
他のクラブとの関係	同時配付　(場所) 同時レク

担当（連絡先）	総合政策部政策局総合教育推進課　工藤 電話：ダイヤルイン 011-206-7380（内線 23－109）

ほっかいどう未来チャレンジ基金の最新情報をお届け！

ほっかいどう未来チャレンジ基金

みらチャレ通信

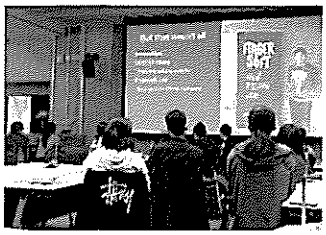
Vol. 37 R2.10

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！10月末時点で、第３期生１名が北海道特派員として引き続き海外で活動中です！

○「Hokkaido Study Abroad Program」で第3期生有働さんが講演しました

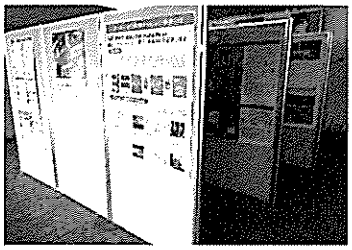
R2.10月に北海道教育委員会主催の「Hokkaido Study Abroad Program」（道立高等学校の生徒の北海道大学への派遣・交流事業）が開催され、みらチャレ第３期生の有働篤人さんがフィンランドでの留学体験などを発表しました。

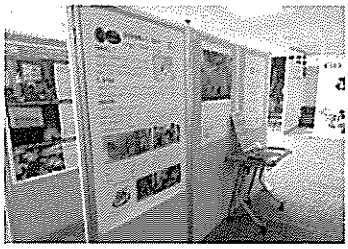
有働さんは、留学体験や留学を通して学んだこと、インターンシップ先企業での活動などについて講演し、「何のために留学するのか」、「どうすれば札幌でもゲーム業界を熱く（活性化）できるか」などについて自身の思いも交えお話をされました。



参加した高校生からは、「語学はどの程度のレベルが必要か」、「留学先としてなぜフィンランドを選んだのか」など英語で活発な質疑応答がなされたほか、有働さんからは、この状況下において留学という形にとらわれず、自らの経験を交え、activeに行動することが必要だとアドバイスをしていました。

○「ほっかいどう未来チャレンジ基金ＰＲパネル展in十勝」を開催しました





10月19日(月）から10月23日（金）まで十勝総合振興局1階道民ホールで「ほっかいどう未来チャレンジ基金ＰＲパネル展in十勝」を開催しました。

会場では、制度の概要や基金生の紹介、留学成果などを紹介するパネルやポスターを展示しました。

また、現在、十勝管内浦幌町の地域おこし協力隊として活躍している第2期生鴻野祐さんの取組も紹介しました。

○「ブラックニッカ ハイボール香る夜」を飲んで「みらチャレ」を応援！

2020年11月1日（日）から2021年1月31日（日）までの3か月間、アサヒビール株式会社様において、自社製品である北海道限定「ブラックニッカ ハイボール香る夜」の販売1本につき1円を「ほっかいどう未来チャレンジ基金（スポーツコース）」にご寄附いただく「世界へ翔け！北海道の未来応援キャンペーン」がスタートします。

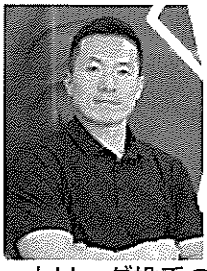
このキャンペーンは、2018年度から始まり今回で５回目の実施となります。

一日の終わりを、ちょっと幸せにしてくれるハイボール、北海道限定「ブラックニッカ ハイボール香る夜」を飲んで、ぜひ北海道の未来を担う若者の海外挑戦にご支援をお願いします。

スポーツコース

第３期生 向井原 洋平さん　【留学先】アメリカ　【留学期間】2019年７月～2020年10月（１２か月間）　※10月下旬帰国済

アスレティックトレーナーに必要な最新スポーツ医学の知識と技術を学び、道スポーツ界に貢献



新型コロナウイルスの影響で一時帰国しておりましたが、８月下旬に再渡航し、活動を再開しました。

アメリカのスポーツ界はアメフトなどプロスポーツ以外も徐々に再開してきており、私の専門であるアスレティックトレーナーはスポーツ現場で定められたプロトコルを順守し、選手への日々の治療やケアを行いながら、スポーツ現場がコロナウィルス感染拡大の一端とならぬよう一役を担っています。

現在はアメリカで学位授与後に与えられるOPT（Optional Practical Training）という制度を利用して、大学院でリサーチアシスタントとして活動しています。共著となりますがアメリカの格式高いスポーツ医学ジャーナルでの論文発表を目指し、担当の教授と細部を詰めています。

個人としては投手の肘関節内側側副靭帯（UCL）損傷の研究を継続しており、日本での一時帰国中に、大リーグ投手の肘関節UCL損傷を題材とした論文を発表しました。UCL損傷について正しい理解が進み、障害予防の一役を担うことを目指しています。

また、ユーススポーツについて受けた講義で興味深いことを学びました。早期のスポーツ種目の決定もしくは専門性と到達レベルは必ずしも一致しないことが明らかになっており、早期にスポーツ種目を決定している少年少女ほど、その種目特有の障害・外傷の発生が高まり、バーンアウト（燃え尽き症候群)によって若くして競技の継続を断念してしまう者が増えると報告されていました。日本での少年野球人口は、近年急速に減少しています。もし、幼少期のスポーツ競技を通年での単一スポーツ活動からシーズン制の複数スポーツ活動として推奨することができれば、各競技団体の少年少女競技人口が増加すると思いますし、先に述べた論文のように各競技特有の障害・外傷の発生を軽減できると思います。

○第３期生の留学成果報告　～留学を終え帰国した第３期生の成果報告を紹介します～

学生留学コース　石垣　のぞみさん　【留学先】ドイツ　【留学期間】2019年10月～2020年８月（10か月） ※2020年3月~8月中断

本道農業の魅力を発信するため、環境立国ドイツで有機農業を学ぶ

【現在帯広畜産大学4年】

【留学概要】

グリーンツーリズム発祥の地であるヨーロッパの中から、環境立国であるドイツに留学をし、ドイツにおけるグリーンツーリズムと持続可能な農業としての有機農業についてファームステイを通して学ぶことで、北海道の農村の魅力を伝え守っていくためのヒントを得ました。

【留学を通じて感じたこと】

新型コロナの影響で残念ながら留学計画は中断となってしまいましたが、その中でもドイツ人の自然に対する親しみやすさをファームインのゲストとの関わりの中から学び、日本人と異なる国民性を肌で感じました。また、ヨーロッパと異なりバカンスの無い日本では、より地域に密着し、外部だけでなく地元の人にもその地域の魅力を発信していけるようなグリーンツーリズムや農業に可能性があると感じました。

【帰国後の活動・今後の目標】

北海道の農村の魅力を再発見するとともに、留学経験を発信したい

帰国後には自主隔離の義務もあり、事後インターンシップを見合わせた状況ですが、今後も地元である北海道の農村の魅力を再発見するために、ファームステイやイベントへの参加を行っていきたいです。また、機会があれば留学から持ち帰った経験を発信していこうと思います。

未来の匠コース　鹿野　皓己さん　【留学先】ドイツ　【留学期間】2019年９月～2020年２月（６か月）

北海道ブランドのワインを確立するため、ドイツで醸造技術を学ぶ

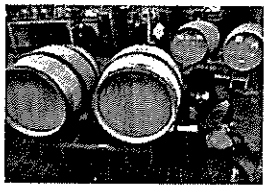
【現在北海道ワイン(株)勤務】

【留学概要】

人員を極力抑えた醸造所で、大量生産を可能にしている醸造設備と醸造スタイルの視察と習得を学びました。通常見学することが難しい稼働している工場を間近で見学することができ、様々な醸造作業も体験できました。また、日本に比べより身近にワインと慣れ親しんでいるドイツの文化を体験しました。イベントやレストランなどに赴き、現地の方がどのようにワインを楽しんでいるかを一緒に参加して体感でき、北海道のワイン産業に活かすことのできる発見ができました。

【留学を通じて感じたこと】

まだまだ私自身の醸造経験が足りなかったため、あらゆる作業で学びを得ることができました。その中で半年間様々な作業を経験したことによって帰国後私の勤めている北海道ワイン株式会社での醸造作業の意図や意味の理解が深まっていることを日々感じています。加えて別のワイナリーで醸造を経験させていただいたことによって、比較することが出来るようになったことが、今後学んだことを活かすことが出来るチャンスに繋がっています。



【帰国後の活動・今後の目標】

学んだ知識を取り入れ、醸造スタイルで北海道と相性の良いものを道内に広める

今回学んだ知識を、まずは現在勤めている会社で取り入れていきたいです。ドイツで学び得た知識を実践するためのプランを考え、その中で認められたプランを実行し、ドイツで学んだ醸造設備や醸造スタイルの北海道においての有効性を検証していきます。その中で北海道と相性の良いものを道内各地に広めていきたいです。

帰国した基金生の活躍機会や、活用できる場の提供などございましたら、ぜひ下記（総合教育推進課）に御連絡ください。

応援パートナーの皆様

（2020年10月現在・敬称略）

明るく 元気に このまちを 苫小牧信用金庫
イオン北海道株式会社
岩田地崎建設
HBA
有限会社キョウゴク
Seccma
大地コンサルタント株式会社
TAIYO GROUP
大和証券 Daiwa Securities
おいしく、北海道らしく。Nichiryo
北洋銀行
株式会社丸竹竹田組
株式会社丸升増田本店
なの花薬局
MOROO
札幌市 City of Sapporo
アイングループ
Asahi アサヒビール
AminoUp
INDETAIL
NTT東日本
小樽商科大学
kanamoto
北菓楼
有限会社京林トネリコ
CRYPTON Sound the future.
ウレタ
オリエンタルホテル
センチュリーロイヤルホテル
札幌商工会議所
JFE
JTB
清水建設
第一生命 Dai-ichi Life Group
大成建設 For a Lively World
ロイトン札幌 Daiwa House Group
丹波屋
Chitose Bus 千歳相互観光バス
TOINT
東京海上日動
道路工業株式会社
Docon
Nipponham
日本製粉北海道
NORTH CREATE
株式会社HARP
萩原建設工業
HITACHI Inspire the Next
北陸銀行
北海道銀行
HORI
IKEUCHI GROUP
MITSUBISHI ELECTRIC Changes for the Better
三菱電機ビルテクノサービス
留学ステーション
One Hokkaido Project

武田 孝（拓殖工業(株)代表取締役会長）　有末 真哉　石川 諭史　遠藤 光二　小黒 敬三　坂詰 貴司　佐藤 友昭（税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士）
鈴木 伸明　船津 秀樹　山田 義勝　その他匿名希望の個人・企業５者

北海道総合政策部政策局総合教育推進課
TEL：011-206-7380（直通）　FAX：011-232-6313
E-mail：mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp
ホームページ：http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm

公式Facebookページ みらチャレ
基金生のチャレンジ風景をお届けします。